

交通管制とデータサイエンス

人口減少社会に向けて、限られた人員と時間の中で質の高い業務を推進するために、業務の効率化等が求められています。業務の効率化には、必要の低い業務を取り除くこともあります。様々なデータを分析し、AI等の新たな技術を活用することが欠かせません。また、仕事を進めるに当たり、何も無いところからアイデアは生まれず、データ分析に基づく情報の塊がアイデアにつながります。

データサイエンスとは、膨大なデータ分析により有益な情報を見いだして新たなサービスを生み出すアプローチとなりますが、社会活動の至る所で、あまり意識されることなく行動背景にデータ分析が用いられています。近年、データサイエンスの知識が様々な領域で求められており、事業戦略やマーケティング戦略にも重要なものとなり、文系理系を問わず必要なスキルの一つになっています。

講師は本学デザイン工学部を卒業した大野木氏と上司である児玉氏をお招きして、警察行政の中でデータをどのように実社会に活用しているのか、主に交通管制システムの運用を例に紹介して頂きます。人や物の動きが経済活動を支える中で、交通事故や交通渋滞に伴う経済損失は多大なものがあります。様々な要因で不規則に変化する交通に対して、より適切な信号制御を行うことで損失を抑制する業務について講演頂きます。行政の仕事を通じて、様々な分野でデータサイエンスの素養を身につける必要性が理解できると思います。

数理・データサイエンス・AI分野の学びについて、専門分野を問わず、理解を深められる内容ですので、MDAPを履修した方、MDAPをこれから履修したいと考えている方だけでなく、数理・データサイエンス・AIにご興味・ご関心をお持ちの方は、是非ご参加ください。また、後半ではMDAPの紹介をはじめ、履修ガイダンスも行います。

4月4日(金)

16:30~18:30

※MDAP履修ガイダンスも行います

新入生大歓迎！！

入学手続きの都合上、法政大学から付与されるメールアドレスではなく、普段お使いの個人メールアドレスからもお申込み頂けます。

ハイレックス開催

市ヶ谷キャンパス

外濠校舎5階S505教室

オンライン (Zoom)

お申し込みはこちら

4月3日〆切

※定員(300名)になり次第、締め切らせていただく場合がございます。



◆講師プロフィール

[<申込フォームはこちら>](#)

■児玉 和彦氏

1992年交通技術職員として警視庁入庁。交通部内の様々な部署や警察庁科学警察研究所での勤務を経験。現在、警察庁指定広域技能指導官として各都道府県警察職員に対して必要な助言等もを行っている。

■大野木 瞳氏

2020年交通技術職員として警視庁入庁。交通規制課で災害交通対策等に従事し、現在、道路整備に伴う信号機の新設や移設工事の設計や工事管理などを行っている。



警視庁交通部交通管制課

信号機管理担当管理官

児玉 和彦氏

信号機整備第一係主事

大野木 瞳氏

法政大学データサイエンスセンター <https://www.dsc.hosei.ac.jp/>

お問い合わせ：法政大学総長室付教学企画 kyogaku@hosei.ac.jp

